(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2012 年 6 月 14 日(14.06.2012)

WIPO | PCT

(10) 国際公開番号
WO 2012/077236 A1

(51) 国際特許分類:
A41D 1/08 (2006.01)

(21) 国際出願番号: PCT/JP2010/072275

(22) 国際出願日: 2010 年 12 月 10 日(10.12.2010)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 株式会社ゴールドウイン(GOLDWIN INC.) [JP/JP]; 〒9320112 富山県小矢部市清沢２１０番地 Toyama (JP). 株式会社ゴールドウインテクニカルセンター (GOLDWIN TECHNICALCENTER INC.) [JP/JP]; 〒9320193 富山県小矢部市清沢２３０番地 Toyama (JP).

(72) 発明者; および

(75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 丸次 寛人 (MARUJI Hiroto) [JP/JP]; 〒1508517 東京都渋谷区松涛２丁目２０の６ 株式会社ゴールドウイン内 Tokyo (JP). 米島 千津子(YONEJIMA Chizuko) [JP/JP]; 〒9320193 富山県小矢部市清沢２３０番地 株式会社ゴールドウインテクニカルセンター内 Toyama (JP). 武藤 宏司 (MUTO Atsusi) [JP/JP]; 〒9320193 富山県小矢部市清沢２３０番地 株式会社ゴールドウインテクニカルセンター内 Toyama (JP).

(74) 代理人: 青木 篤, 外 (AOKI Atsushi et al.); 〒1058423 東京都港区虎ノ門三丁目５番１号 虎ノ門３７森ビル青和特許法律事務所 Tokyo (JP).

(81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PE, PG, PH, PL, PT, RO, RS, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI

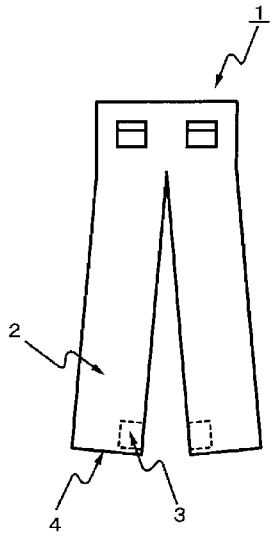
[続葉有]

(54) **Title**: SKI PANTS

(54) 発明の名称 : スキーパンツ

[図1]

図1



(57) **Abstract**: The purpose of the present invention is to provide ski pants comprising an edge guard that does not impede movement when a user is gliding using skis. Provided are ski pants (1) comprising an edge guard (3) on the inside thigh side of a cuff section (2) that is between below the knee and a cuff lower end (4). The edge guard (3) is an elastic or viscoelastic shock absorbent.

(57) 要約: 本発明はユーザーがスキーで滑走しているときの動作が妨げられることがないエッジガードを備えたスキーパンツを提供することを目的とする。本発明は、裾下端４と膝下との間の裾部２において内股側にエッジガード３を備えたスキーパンツ１であって、エッジガード３が、弾性体または粘弾性体の衝撃吸収体である。

WO 2012/077236 A1

(BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告（条約第 21 条(3)）

明　細　書

発明の名称 ： スキーパンツ

技術分野

[0001] 本発明は、エッジガードを有するスキーパンツに関する。

背景技術

[0002] スキーで滑走しているとき、スキー板のエッジがスキーパンツの裾に当たり、その裾が切れてしまう場合がある。これを防ぐために、裾部を外側から保護するエッジガードを備えたスキーパンツが従来技術として知られている（たとえば、特許文献１，２）。特許文献１では、エッジガードを使い捨てのパーツで構成するようにし、必要なときに取り替え可能としている。このエッジガードは、硬質合成樹脂、たとえば、硬質ウレタン樹脂からなる。特許文献２では、スキーパンツのアウターの内側裾口に適宜大きさの部材によって半折りに構成したエッジガードを、エッジガードの内側部材から突出した複数の突起を外側部材の受け孔に嵌合するようにスキーパンツの生地を刺し通して取り付け、突起を構成した戻り止め構造により固定している。このエッジガードは、合成樹脂、好ましくは半硬質合成樹脂の薄ものによって形成される。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開２００７－２３４５６号公報

特許文献2：特開２００２－１８０３０６号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004] 本発明のエッジガードは、一般スキーヤー（ユーザー）向けではない。従来のエッジガードは、スキーヤーが操作を誤り、スキー板のエッジでスキーパンツを切ることを想定して、硬質材料を用いる。一方、本発明は、プロスキーヤーなどの、スキー上級者が滑走中に起きる現象に対処するものであり

、スキー板のエッジが与える強い衝撃によるスキーパンツの裾の断裂を防ぎ、かつ、スキーパンツに固着しないことにより、切り裂きも防ぐ。上述したように、エッジガードの素材には、硬質合成樹脂、半硬質合成樹脂などの硬い素材が使用される。このため、スキーで滑走しているとき、０．１秒以下の遅れが致命的になるスキーヤーにとって、硬質で固定されるエッジガードは、操作に支障が生じる場合がある。また、デザイン性を重視し、エッジガードをスキーパンツの裏生地側に設けると、スキー板のエッジにより切れる現象を防止する効果がなくなる。

課題を解決するための手段

[0005] 本発明は、上記課題を解決すため、以下の構成を採用した。

すなわち、本発明は、裾下端と膝下との間の裾部において内股側にエッジガードを備えたスキーパンツであって、エッジガードが、弾性体または粘弾性体の衝撃吸収体である。ここで、裾部に、衝撃吸収体を取り付ける衝撃吸収体取付手段を備える。また、衝撃吸収体取付手段が、衝撃吸収体を中に収納する衝撃吸収体収納部である。好ましくは、衝撃吸収体収納部が、衝撃吸収体の取り出しを可能とする。また、衝撃吸収体収納部が、衝撃吸収体の抜け落ちを防止する抜け落ち防止手段を備える。また、衝撃吸収体収納部が、衝撃吸収体の取り出しを不能とする。さらに、衝撃吸収体収納部が、衝撃吸収体収納部に入った水を排出する水抜き手段を備える。好ましくは、水抜き手段が、衝撃吸収体収納部に設けた水抜き用の切れ目である。また、衝撃吸収体取付手段が、衝撃吸収体を裾部に貼着させる貼着手段としてもよい。本発明のスキーパンツは、裾部の裏側に衝撃吸収体を備える。また、本発明のスキーパンツは、裾部が複数の生地で構成される場合、その複数の生地の間に、またはその複数の生地の間および裾部の裏側に衝撃吸収体を備えるようにしてもよい。

発明の効果

[0006] 本発明によれば、エッジガードは柔らかいので、ユーザーがスキーで滑走しているときの動作がエッジガードによって妨げられることがない。また、

裾部の裏側に、または裾部が複数の生地で構成されるとき、その複数の生地の間に、もしくはその複数の生地の間および裾部の裏側にエッジガードを備えるようにしても、スキーパンツがスキー板のエッジの衝撃より切れるのを抑制することができる。

図面の簡単な説明

[0007] [図1]図１は、本発明の一実施形態のスキーパンツを説明するための図である。

[図2]図２（Ａ）は、本発明の一実施形態のスキーパンツに設けられたエッジガードを説明するための図であり、図２（Ｂ）は、図２（Ａ）のＡ－Ａ断面図である。

発明を実施するための形態

[0008] 図１および図２を参照して、本発明の一実施形態におけるスキーパンツ１を説明する。このスキーパンツ１は、スキー板のエッジの衝撃によりスキーパンツ１が切れるのを防止するためにエッジガード３が設けられている。ここで、スキー板のエッジとは、スキー板の滑走面と、該滑走面と直角をなす面とで構成される角である。

[0009] 図１は、本発明の一実施形態のスキーパンツ１を説明するための図である。この一実施形態のスキーパンツ１は、とくにスキー上級者が使用するのに好適である。ここで、スキー上級者とは、スキー回転、スーパー大回転、スキー滑降などのスキー競技に出場するようなスキーヤーである。したがって、このスキーパンツ１は、スキー競技用に使用するのがとくに好ましい。

[0010] 図１に示すように、スキーパンツ１には、エッジガード３が、スキーパンツ１の裾下端４と膝下との間の裾部２の内股側に設けられている。特に、エッジガード３は、エッジガード３がスキーパンツ１に当たる可能性が高い裾下端４近傍に設けられることが好ましい。デザイン性を重視し、エッジガード３によってスキーパンツ１の見栄えが損なうのを防止するため、エッジガード３は、スキーパンツ１の裏側（裏生地側）に設けられている。ここで、スキーパンツ１の外側から見えるスキーパンツ１の生地を表生地と呼び、表

生地に対して裏側に存在する生地を裏生地と呼ぶ。

[0011] エッジガード３は、スキー板のエッジがスキーパンツ１に当たったときの衝撃を吸収する衝撃吸収体である。ここで、衝撃吸収体とは、材料の弾性変形または、材料の弾性変形および粘性流動によって衝撃力を分散および吸収する材料である。したがって、衝撃吸収体は、弾性体または粘弾性体であることが好ましい。本発明の一実施形態の衝撃吸収体には、衝撃吸収材のみからなる衝撃吸収体のほかに、衝撃吸収材と衝撃級取材以外の材料とからなる衝撃吸収体も含まれる。また、この衝撃吸収体には、硬質ウレタン樹脂などの硬質合成樹脂または半硬質合成樹脂といった硬い素材は含まれない。エッジガード３に使用される衝撃吸収体は、スキー板のエッジによる衝撃を吸収するものであれば特に限定されないが、衝撃吸収体には、ポリウレタン系樹脂、シリコン系樹脂、アクリル系樹脂、ポリエチレン系樹脂、ビニル系樹脂、スチレン系樹脂、ゴム、衝撃緩衝用ゲル、ポリプロピレン系樹脂、ポリオレフィン系樹脂、ポリスチレン樹脂およびこれらを組み合わせたものなどがある。特に、弾性変形および粘性流動によって衝撃力を分散および吸収する能力の高い、衝撃吸収樹脂、衝撃吸収ゴムおよび衝撃緩衝用ゲルが好ましい。

[0012] スキーパンツ１の裏側に設けられたエッジガード３は、スキー板のエッジがスキーパンツ１に当たったときに発生しスキーパンツ１を切断する、せん断応力を吸収する。このため、スキーで滑走しているとき、スキー板のエッジがスキーパンツ１に当たり、その衝撃によりスキーパンツ１が切れることを抑制することができる。発明者は、この点について試験を行って確認した。この試験については、後述する。

[0013] 図２（Ａ），（Ｂ）を参照して、本発明の一実施形態におけるスキーパンツ１に設けられたエッジガード３を詳細に説明する。図２（Ａ）は、本発明の一実施形態のスキーパンツ１に設けられたエッジガード３を説明するための図であり、図２（Ｂ）は、図２（Ａ）のＡ－Ａ断面図である。

[0014] 図２（Ａ），（Ｂ）に示すように、ポケット布５１とスキーパンツ１の裏

生地２２とでポケットが構成され、そのポケットの中に矩形形状のエッジガード３が収納される。エッジガード３がそのポケットから抜け落ちるのを防止するため、ポケット布５１とスキーパンツ１の裏生地２２とで形成されるポケットの開口部を塞ぐように蓋布５２が設けられている。ポケット布５１と蓋布５２とは、スキーパンツ１の裏生地２２に縫い付けられている。

[0015] 図２（Ｂ）に示すように、蓋布５２は、ポケット布５１と一部重なっており、その重なっている部分を広げて、エッジガード３を折り曲げながらそのポケットの中からエッジガード３を取り出したり、また、その部分を通してエッジガード３をそのポケットに収納したりすることができる。

[0016] エッジガード３がポケット布５１とスキーパンツ１の裏生地２２とで構成されるポケットの中を移動しないようにするため、そのポケットは、エッジガード３の大きさに合わせて作製される。すなわち、エッジガード３の大きさは、エッジガード３がそのポケットに収納されたとき、エッジガード３が移動できないほどの大きさである。

[0017] ポケット布５１および蓋布５２の材質は、メッシュ生地、織物、編物、皮革およびこれらを組み合わせたものから構成される群から選択されるものであるが、これらに限定されない。また、ポケット布５１の材質は、蓋布５２の材質と異なってもよいし、同じでもよい。さらに、ポケット布５１および蓋布５２の材質は、スキーパンツ１の素材と同じでもよいし、異なってもよい。

[0018] 図２（Ｂ）に示すように、ポケット布５１の裾下端４側の２箇所の隅に水抜き用の切れ目５３が形成されている。ポケット布５１のこの部分は、縫い付けられておらず、ポケット布５１とスキーパンツ１の裏生地２２とで構成されるポケットの中に雪が入り込んでも、水抜き用の切れ目５３から水として排出される。

実施例

[0019] スキーパンツの切断抑制確認試験

１．試験方法

（１）試験者は、スキーパンツを両足に履いた後、スキーブーツも両足に履いた。このとき、スキーパンツの脛部分から裾部分までの部分によってスキーブーツが隠れるようにした。スキーパンツは、表生地、なか綿、裏生地の断面構造になっていた。

（２）スキーパンツとスキーブーツとが重なる部分において、スキーパンツの右脚の裏側に軟質ウレタンフォームの衝撃吸収体パッドを取り付けた。すなわち、スキーパンツの右脚は、スキーパンツの生地とスキーブーツとの間に衝撃吸収体パッドが挟まれる構造とした。スキーパンツの左脚については、衝撃吸収体パッドを取り付けなかった。

（３）試験者は、一本のスキー板を両手に持ち、スキー板のエッジでスキーパンツの上から両脚のスキーブーツをそれぞれ４０回ずつ強く打ち付けた。このとき、スキー板のエッジがスキーパンツに当たるときに想定される力よりもかなり強い力で打ち付けた。

（４）右脚（衝撃吸収体パッドあり）と左脚（衝撃吸収体パットなし）とでスキーブーツを覆っているスキーパンツのダメージを比較した。

[0020] ２．試験結果

（１）スキーパンツの右脚（衝撃吸収体パッドあり）

スキー板のエッジとの擦過による擦り傷が観察された。３ｍｍ程の打撃による切り傷（穴）が表生地に２箇所観察された。

（２）スキーパンツの左脚（衝撃吸収体パットなし）

スキー板のエッジとの擦過による擦り傷が観察された。２０ｍｍ程の打撃による切り傷（穴）が１２箇所、観察された。３ｍｍ程の切り傷が９箇所、観察された。２０ｍｍ程の大きさの切り傷の中には、なか綿部分にまで達する深い切り傷が６箇所、観察された。

（３）考察

上記試験結果（１），（２）を比較することにより、エッジガード３をスキーパンツ１の裏側に取り付けることによって、スキー板のエッジがスキーパンツ１に当りスキーパンツ１が切れるのを抑制する効果を確認した。上記

実験では、スキーで滑走中、スキー板のエッジがスキーパンツに当たるときに想定される力よりもかなり強い力でスキー板を打ち付けているので、スキーで滑走中、スキー板のエッジがスキーパンツに当たっても切れない。

[0021] 以上の一実施形態によるスキーパンツ１では、次のような作用効果を奏する。

（１）エッジガード３を弾性体または粘弾性体の衝撃吸収体とした。これにより、エッジガード３は柔らかいので、ユーザーがスキーで滑走しているときの動作がエッジガード３によって妨げられることがない。とくに、スキーで滑走しているとき、０．１秒以下の遅れが致命的になるスキー上級者にとってその効果は大きい。

[0022] （２）ポケット布５１とスキーパンツ１の裏生地２２とで構成されるポケットの中にエッジガード３を収納するようにした。これにより、スキーパンツ１の裾部２の裏側にエッジガード３を容易に取り付けることができる。また、エッジガード３の表面は、スキーパンツ１の裏生地２２に固定されておらず、接触しているだけである。これにより、エッジガード３の表面は裏生地２２に拘束されることなく変形することができ、エッジガード３をスキーパンツ１に取り付けたことによるエッジガードの衝撃吸収力の低減を減少させることができる。さらに、スキー板のエッジがスキーパンツにあったとき、表生地２１とエッジガード３とが少しずれるので、エッジガードの衝撃によるスキーパンツの断裂をさらに抑制することができる。

[0023] （３）ポケット布５１とスキーパンツ１の裏生地２２とで構成されるポケットからエッジガード３を取り出せるようにした。これにより、ユーザーのスキーの熟練度や好みに合わせて、エッジカード３を取り替えることができる。

[0024] （４）ポケット布５１とスキーパンツ１の裏生地２２とで構成されるポケットにエッジガード３の抜け落ちを防止するための蓋布５２を設けるようにした。これにより、ユーザーがスキーを滑っている間に、エッジガード３が抜け落ちてしまうのを防止することができる。

[0025] （５）ポケット布５１とスキーパンツ１の裏生地２２とで構成されるポケットに、そのポケットに入った水を排出する水抜き用の切れ目５３を備えるようにした。これにより、そのポケットに雪が入っても、解けた水がそのポケットに溜まるのを防止することができる。

[0026] （６）スキーパンツ１の裾部２の裏側にエッジガード３を備えるようにした。これにより、エッジガード３によってスキーパンツ１の見栄えが損なうのを防止するとともに、スキー板のエッジによってスキーパンツが切れるのを防止することができる。一方、従来の硬いエッジガードでは、裾部２の裏側に備えるようにすると、硬質のカッターマット上で紙などが容易に切れるのと同じように、スキー板のエッジによってスキーパンツが容易に切れてしまうことになる。

[0027] 以上の一実施形態のスキーパンツ１を次のように変形することができる。

（１）スキーパンツ１の裾部２にエッジガード３を取り付けることができれば、その取付手段は、ポケット布５１とスキーパンツ１の裏生地２２とで構成されるポケットの中にエッジガード３を収納することに限定されない。たとえば、スキーパンツ１の表生地２１（図２（Ｂ）参照）もしくは裏生地２２とエッジガード３とに面ファスナーなどの貼着手段を設け、貼着手段でスキーパンツ１の裾部２にエッジガード３を取り付けるようにしてもよい。これによってもスキーパンツ１の裾部２にエッジガード３を容易に取り付けることができる。また、貼着手段がエッジガード３の着脱自在である貼着手段である場合、エッジガード３の取り替えも可能になる。

[0028] また、スキー板のエッジがスキーパンツにあったとき、表生地２１とエッジガード３とが少しずれると、エッジガードの衝撃によるスキーパンツの断裂をさらに抑制することができるので、スキー板のエッジがスキーパンツにあったとき、表生地２１とエッジガード３とが少しずれる取付手段であれば、その取付手段は、ポケット布５１とスキーパンツ１の裏生地２２とで構成されるポケットの中にエッジガード３を収納することに限定されない。

[0029] （２）エッジガード３を収納することができれば、エッジガード３の収納は

ポケットによる収納に限定されない。たとえば、スキーパンツ１の裏生地２２の上のエッジガード３を所定の生地で覆って、その生地を開放部なしで縫い付けて、エッジガード３を取り付けるようにしてもよい。すなわち、取り出し不能の閉じた袋の中にエッジガードを収納して取り付けるようにしてもよい。

[0030] （３）エッジガードのポケットからの抜け落ちを防止することができれば、蓋布５２による抜け落ち防止手段に限定されない。たとえば、ポケット布５１とスキーパンツ１の裏生地２２とで形成されるポケットの開口部にファスナーを設けて、エッジガードのポケットからの抜け落ちを防止するようにしてもよい。

[0031] （４）エッジガード３を収納するポケットに入った水を排出することができれば、その水抜き手段は、ポケットに設けた水抜き用切れ目５３に限定されない。たとえば、ポケット布５１、蓋布５２などをメッシュ生地で形成するようにして水を排出できるようにしてもよい。

[0032] （５）エッジガード３をスキーパンツ１の裏側（裏生地２２側）に設けたが、スキーパンツ１の表側（表生地２１側）に設けるようにしてもよい。この場合もエッジガード３がスキー板のエッジの衝撃を吸収し、スキーパンツ１が切れるのを防止することができる。スキーパンツ１が複数の生地（たとえば、図２（Ｂ）の表生地２１および裏生地２２）で構成される場合、その複数の生地の間（たとえば、図２（Ｂ）の表生地２１と裏生地２２の間）にエッジガード３を設けるようにしてもよい。この場合も、エッジガード３によってスキーパンツ１の見栄えが損なうのを防止するとともに、スキー板のエッジによってスキーパンツ１が切れるのを防止することができる。また、スキーパンツ１の裏側および複数の生地の間にエッジガードを設けるようにしてもよい。この場合も、同様に、エッジガード３によってスキーパンツ１の見栄えが損なうのを防止するとともに、スキー板のエッジによってスキーパンツ１が切れるのを防止することができる。

[0033] （６）エッジガード３の形状は矩形形状であったが、一実施形態に限定され

ない。たとえば、円形状や半円形状、三角形状などでもよい。

[0034] （７）エッジガード３の大きさは、一実施形態に限定されない。特に、本発明の一実施形態におけるスキーパンツのエッジガード３は、ユーザーのエッジガード３を邪魔に感じる程度を軽減させることができるので、大きくすることができる。たとえば、スキーパンツの裾部の全周のうちの内股側の半分にエッジガードを設けたり、裾部の裾下端側半分にエッジガードを設けたり、内股側の半分および裾下端側半分にエッジガードを設けたりすることができる。このように、エッジガードを大きくすることができるので、スキー板のエッジがスキーパンツの裾に当たり、その裾が切れてしまうことをより確実に防止することができる。

[0035] （８）本発明のスキーパンツ１は、裾部、たとえば、裾部の裾下端側の略全体にわたりエッジガードを設けることにより、他人のスキー板のエッジがスキーパンツ１に当たってもスキーパンツ１が切れないようにすることができる。上述したように、本発明のスキーパンツ１では、エッジガード３を大きくすることができるので、そのようなことが可能になる。また、スノーボードの場合も、他人のスノーボードのエッジが当たりスノーボード用のパンツが切れる場合もあるので、本発明のスキーパンツは、スノーボード用のパンツにも適用することができる。

[0036] 実施形態と変形例の一つ、もしくは複数を組み合わせることは可能である。変形例同士をどのように組み合わせることも可能である。

[0037] 以上の説明はあくまで一例であり、本発明は上記実施形態の構成になんら限定されるものではない。

符号の説明

[0038] １ スキーパンツ

２ 裾部

３ エッジガード

４ 裾下端

２１ 表生地

２２　裏生地

５１　ポケット布

５２　蓋布

５３　水抜き用の切れ目

請求の範囲

[請求項1] 裾下端と膝下との間の裾部において内股側にエッジガードを備えたスキーパンツであって、

前記エッジガードが、弾性体または粘弾性体の衝撃吸収体であるスキーパンツ。

[請求項2] 前記裾部に、前記衝撃吸収体を取り付ける衝撃吸収体取付手段を備える請求項１のスキーパンツ。

[請求項3] 前記衝撃吸収体取付手段が、前記衝撃吸収体を中に収納する衝撃吸収体収納部である請求項２のスキーパンツ。

[請求項4] 前記衝撃吸収体収納部が、前記衝撃吸収体の取り出しを可能とする請求項３のスキーパンツ。

[請求項5] 前記衝撃吸収体収納部が、前記衝撃吸収体の抜け落ちを防止する抜け落ち防止手段を備える請求項４のスキーパンツ。

[請求項6] 前記衝撃吸収体収納部が、前記衝撃吸収体の取り出しを不能とする請求項３のスキーパンツ。

[請求項7] 前記衝撃吸収体収納部が、前記衝撃吸収体収納部に入った水を排出する水抜き手段を備える請求項３乃至６のいずれかのスキーパンツ。

[請求項8] 前記水抜き手段が、前記衝撃吸収体収納部に設けた水抜き用の切れ目である請求項７のスキーパンツ。

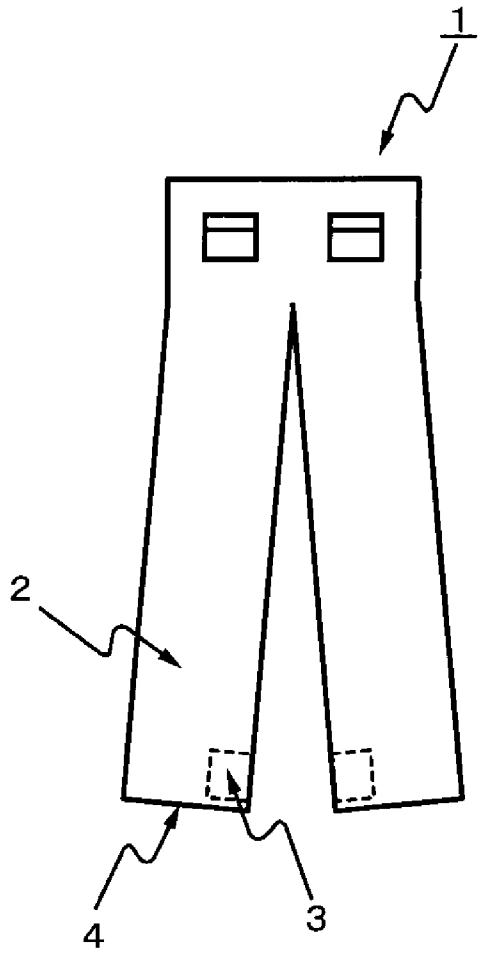
[請求項9] 前記衝撃吸収体取付手段が、前記衝撃吸収体を前記裾部に貼着させる貼着手段である請求項２のスキーパンツ。

[請求項10] 前記裾部の裏側に前記衝撃吸収体を備える請求項１乃至９のいずれかのスキーパンツ。

[請求項11] 前記裾部が複数の生地で構成される場合、その複数の生地の間に、またはその複数の生地の間および前記裾部の裏側に前記衝撃吸収体を備える請求項１乃至９のスキーパンツ。

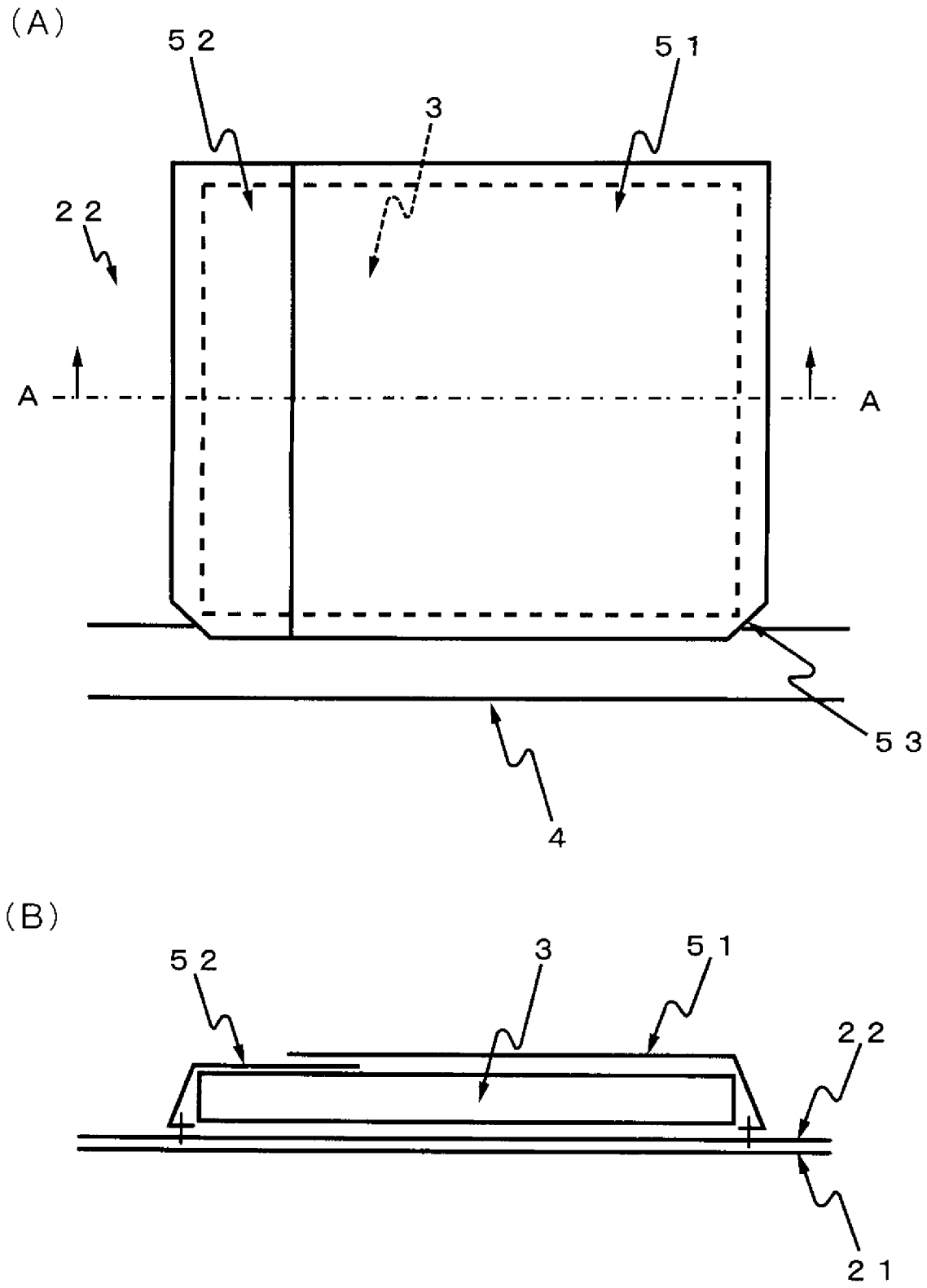
[図1]

図1



[図2]

図2



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2010/072275

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
A41D1/08(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)
A41D1/08, A41D13/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2011
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2011	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2011

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2007-23456 A (Morito Co., Ltd.), 01 February 2007 (01.02.2007), entire text; all drawings (Family: none)	1-11
Y	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 15439/1984(Laid-open No. 132408/1985) (Descente, Ltd.), 04 September 1985 (04.09.1985), page 1, lines 5 to 9; page 4, lines 9 to 18 (Family: none)	1-11

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed
"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search	Date of mailing of the international search report
05 January, 2011 (05.01.11)	18 January, 2011 (18.01.11)
Name and mailing address of the ISA/ Japanese Patent Office Facsimile No.	Authorized officer Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2010/072275

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 59887/1988(Laid-open No. 164713/1989) (Goldwin Inc.), 17 November 1989 (17.11.1989), entire text; all drawings (Family: none)	1-11
Y	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 49907/1984(Laid-open No. 161111/1985) (Mitsui Bussan Sports Yohin Hanbai Kabushiki Kaisha), 26 October 1985 (26.10.1985), page 3, lines 14 to 16 (Family: none)	1-11
Y	JP 2006-233359 A (Daiwa Seiko Inc.), 07 September 2006 (07.09.2006), page 4, lines 30 to 43 (Family: none)	7-8

国際調査報告

国際出願番号　ＰＣＴ／ＪＰ２０１０／０７２２７５

Ａ．　発明の属する分野の分類（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　A41D1/08(2006.01)i

Ｂ．　調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　A41D1/08,A41D13/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	１９２２－１９９６年
日本国公開実用新案公報	１９７１－２０１１年
日本国実用新案登録公報	１９９６－２０１１年
日本国登録実用新案公報	１９９４－２０１１年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

Ｃ．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
Y	JP 2007-23456 A (モリト株式会社) 2007.02.01, 全文、全図 (ファミリーなし)	1-11
Y	日本国実用新案登録出願 59-15439 号(日本国実用新案登録出願公開 60-132408 号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム (株式会社デサント) 1985.09.04, 第 1 頁第 5-9 行、第 4 頁第 9-18 行 (ファミリーなし)	1-11

☑　Ｃ欄の続きにも文献が列挙されている。

☐　パテントファミリーに関する別紙を参照。

＊　引用文献のカテゴリー
「Ａ」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「Ｅ」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「Ｌ」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「Ｏ」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「Ｐ」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献
「Ｔ」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「Ｘ」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Ｙ」特に関連のある文献であって、当該文献と他の１以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「＆」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日 ０５．０１．２０１１	国際調査報告の発送日 １８．０１．２０１１
国際調査機関の名称及びあて先 日本国特許庁（ＩＳＡ／ＪＰ） 郵便番号１００－８９１５ 東京都千代田区霞が関三丁目４番３号	特許庁審査官（権限のある職員）　３Ｂ　９３３９ 二ッ谷　裕子 電話番号　０３－３５８１－１１０１　内線　３３２０

Ｃ（続き）．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
Y	日本国実用新案登録出願 63-59887 号(日本国実用新案登録出願公開 1-164713 号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム（株式会社ゴールドウイン） 1989.11.17，全文、全図 (ファミリーなし)	1-11
Y	日本国実用新案登録出願 59-49907 号(日本国実用新案登録出願公開 60-161111 号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム（三井物産スポーツ用品販売株式会社） 1985.10.26，第 3 頁第 14-16 行 (ファミリーなし)	1-11
Y	JP 2006-233359 A（ダイワ精工株式会社） 2006.09.07，第 4 頁第 30-43 行 (ファミリーなし)	7-8